

1. 背景と現状

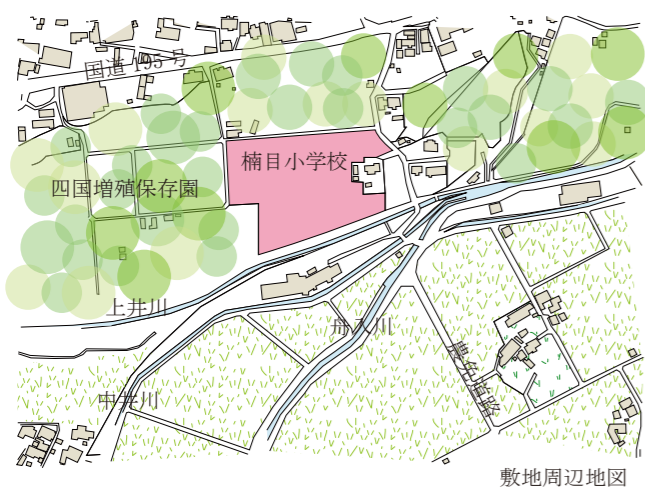
楠目小学校は香美市土佐山田町の中心部に位置し、現在の校区人口は3674名、総戸数は1621戸(平成19年4月現在)である。楠目小学校校区は、かつて農業地帯であったが、近年県内外からの転入者が多く、新興住宅ができた、校区改正があるなどして市街化が進んでいる。これに対して、家族構成は核家族化や少子高齢化している。

約30年前には原っぱや水辺が多くあり、トンボやバッタを追いかけて遊ぶ子ども達の姿が見られていた。しかし、現在は家の中にもテレビゲームで遊んでいる。外に出て遊ぶとしても原っぱはコンクリート詰め、水辺には高いフェンスが付けられ30年前のように自然と容易に触れ合う事が難しくなっている。

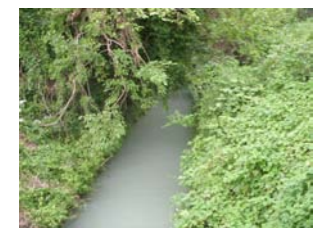
本卒業設計では楠目小学校を対象敷地とし、子どもが自然と容易に触れ合える空間を立案するものである。

2. 目的

楠目小学校を自然を取り込んだ学校に改修し、豊かな人間性を育成する。子どもの心が生き物のありのままの姿に触れ、不思議がったり、驚いたり、時には恐れたりしながら生き物の命と共鳴するためには、少なくとも時間割で決められた時、決められた場所で決められた事をして終わりではいけない。時間をかけてじっくりと対話のできる環境が必要である。遊びなどを通じて日常的に自然と触れ合う体験が必要であり、それを可能とする自然度の高い環境を子ども達の身近に確保する事が重要だと考える。

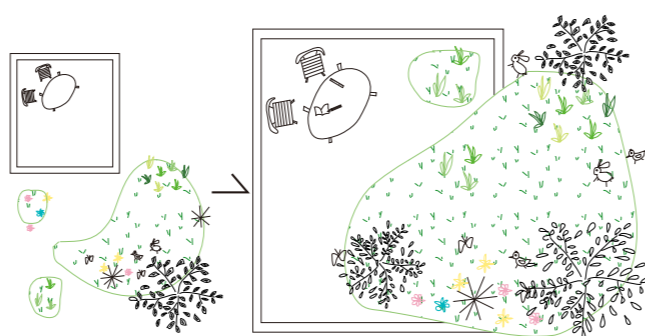


敷地周辺地図



現況写真

3. コンセプト



子ども達は学校ビオトープ内の緑、樹木や小鳥のさえずりなどに接することで、心に安らぎを感じる。それは、私たちが先祖から受け継いでできた系統発生的な適応感覚によるものであり、緑の中でこそ私たちは安心できるものである。

まず、この小学校がその周囲の環境を変える。そして、その周囲の環境が子ども達を変える。

3. 配置

近くの川を小学校に引き込むことにより、親水空間をつくり出し、地形を活かした南に開けた校舎にする。小学校にとって子どもは、『学習者』であり、『生活者』でもある。教室と教室の間を充実させ、移動する間も自然に触れ合える配置にする。

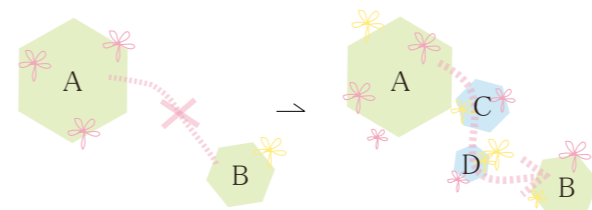
3-2. 生態系

学校内に植栽や小川、ビオトープを設けることで多様な生態系を生み出し、北側の山と南側の田畑の間を繋ぎ、生態系のネットワークを繋げる。野山に自生する植物は、高知の気候風土に合わせて育てていく。自然そのままの四季の移ろいを小学校全体に呼び込む。そのためには、学校を『野山の縮図』とおき、子どもだけでなく動植物にとっても過ごしやすい場とする。

3-3. 教室

教室と庭(内部空間と外部空間)が曖昧に交差する。内と外の境はなくなり、子ども達の世界であるとともに、動植物の世界でもあり、ただ一つの地球環境を作り出す。学校で学ぶ空間は教室だけでなく、校庭やテラススペースとなっている空間などを学びの場として機能させる。使い方を強制しないで子どもたちの創造力を高めるような空間にする。

4. ビオトープ (生態系)



生態系が孤立していると多様な生物種を誘致し、再生産することができないため、地域全体の自然の活力や多様性をあげるには、特定の範囲にいくつものビオトープが生態学的ネットワークを形成していることが必要である。

例えば、AからBにひといきには渡ることができないが、その途中でC,Dのビオトープがあればそれを踏み石のように伝って移動することができる。

学校ビオトープに生息する生物は、教材として活用されるだけでなく、そこにある事自体に価値がある。

5. 教室の構成と配置

5-1. 特別教室

特別教室とは、理科、家庭、技術、音楽、図工、図書、視聴覚室などを普通教室と区別して特別教室と呼ぶ。特別教室の「特別」とは実験や実習などの作業のための設備や楽器、道具、作業台などがあり、教室は広くて、音や臭い、汚れなどが発生しやすいという意味である。

特別教室は、専門授業が行いやすく、いつもと違う雰囲気や授業を受けられるため、気分転換にもなるという利点がある。その反対に全体の普通教室の利用率が下がる事や移動距離が長い、小学生課程では専門性が低い必要性が薄いとされている。

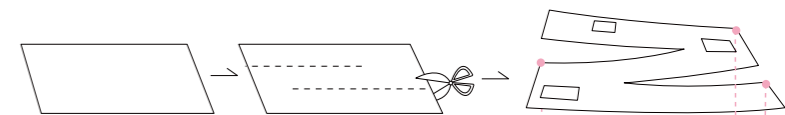


そのため、敷地外に一部の特別教室を配置し、教育施設兼公共施設として地域住民にも開放出来るようにする。「移動する」というよりも「お出かけする」、「遠足に行く」という楽しい気分で教室から教室へ渡ることが出来たら楽しいのではないかと考えた。移動距離を短くするのは簡単だが、子ども達を狭いハコの中に閉じこめておくよりも、地域住民にも子どもたちの楽しそうな雰囲気が見れる地域に開けた小学校をつくる。

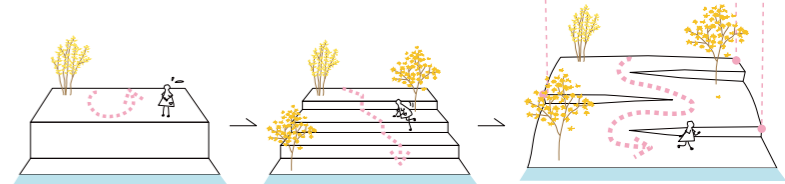
教室のゾーニング



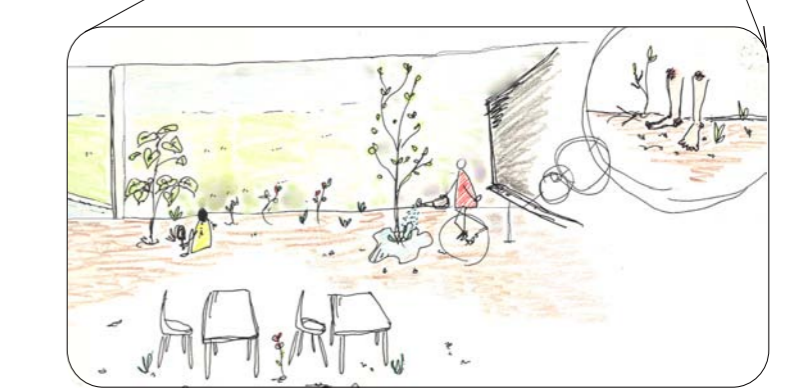
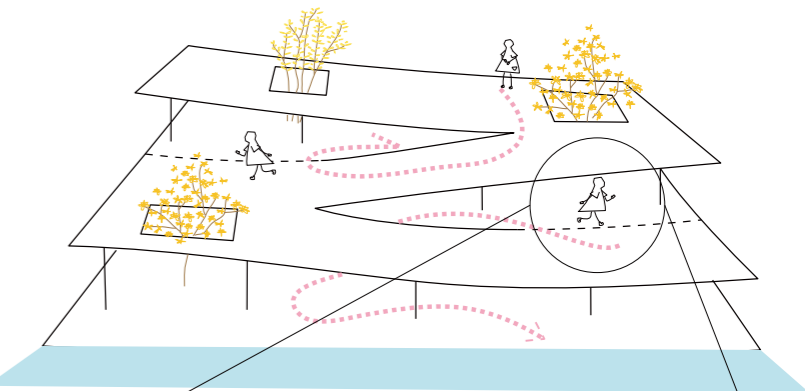
5-2. 普通教室



大屋根をかける。地盤になじむよう分割する。光窓をつけ、蛇腹に開き、屋根の上も歩けるようにする。



崖の下に川があり、近づく事ができない。段差を付けて、川に近けるようにするならかな傾斜を加える事で自然に川に近づく事ができるようになる。

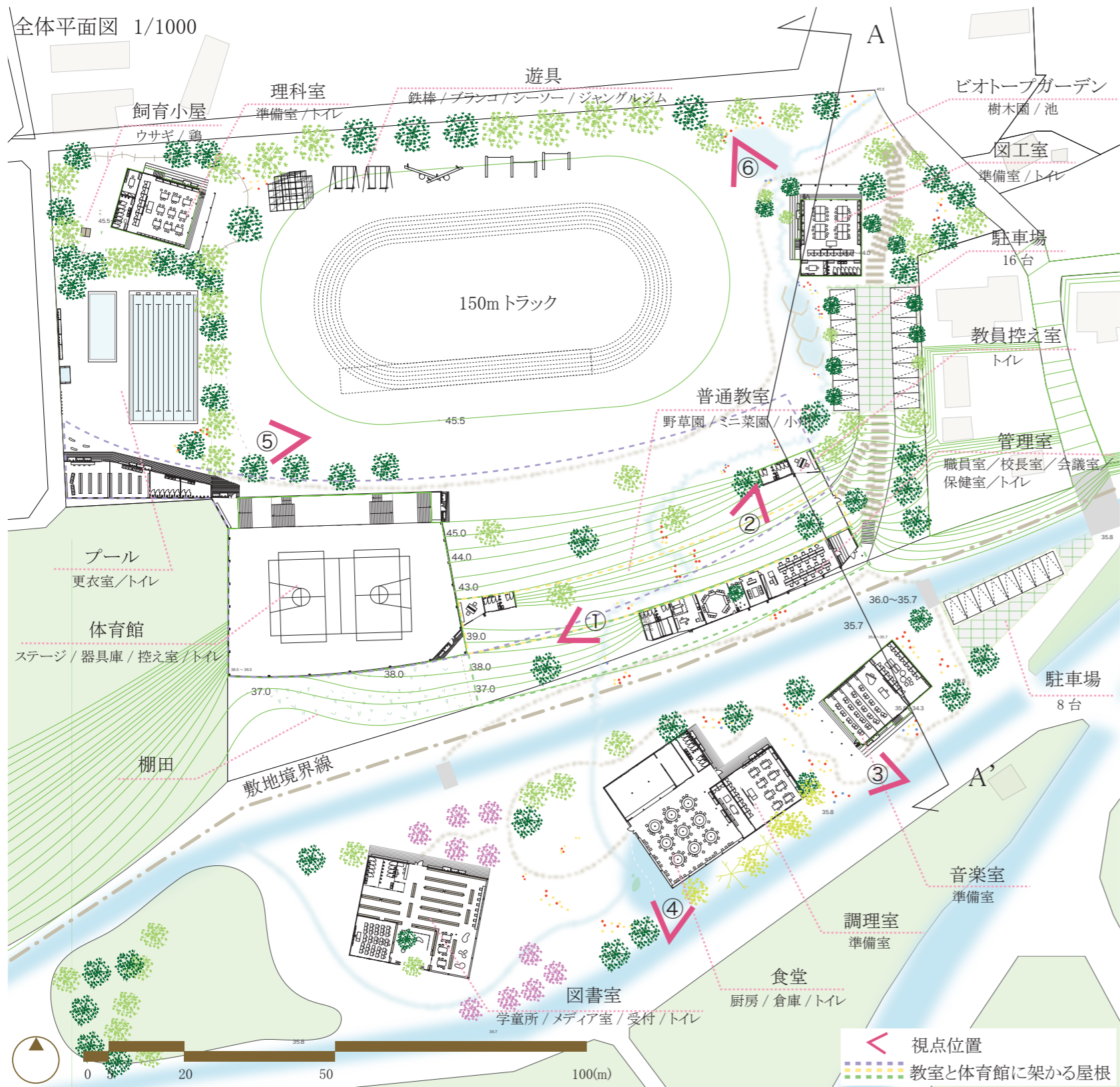


教室の床を土にすることで子ども達の多様な感性をひきだす。できるだけ靴は履かずに裸足で生活する。そうすることで、机のすぐ足元に咲いた花や草を踏まないよに気づいたり、足の裏で草の感触を楽しんだりして自然に触れ合う。

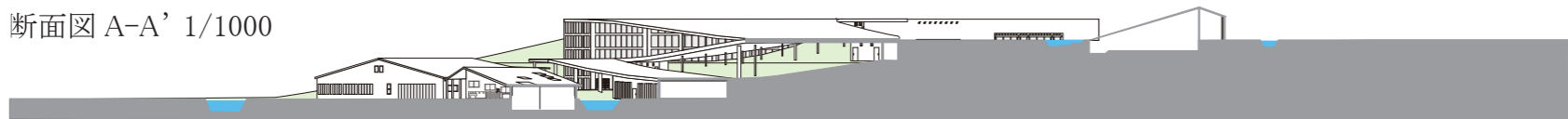
教室内に自然をそのまま取り込むため、プランターはなく庭にある花に水やりするように水をあげたり、穴を掘ったり、山を作ったりでき、どんどん教室をいじっていき自分達で教室を作っていく。教室の中だけじゃ物足りなくなった子は外に出て行く。やがて、教室は子ども達の秘密基地のように愛着を持ちだし、学校に来るのが楽しくなってくるだろう。



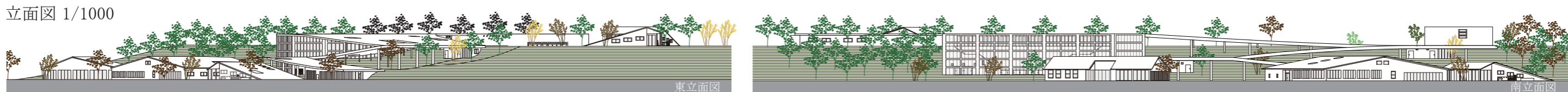
全体平面図 1/1000



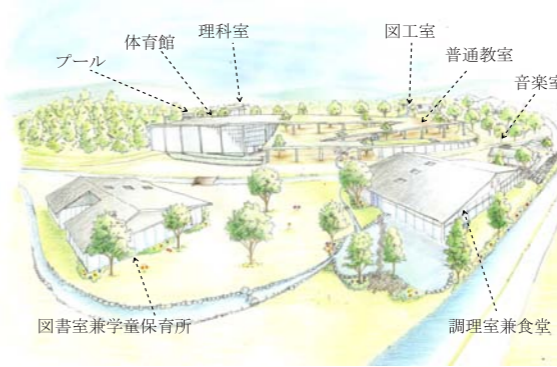
断面図 A-A' 1/1000



立面図 1/1000

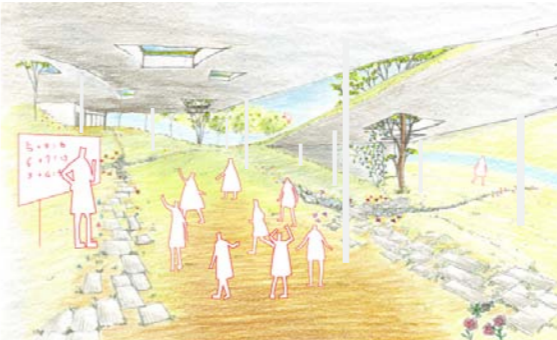


鳥瞰パース(南側)



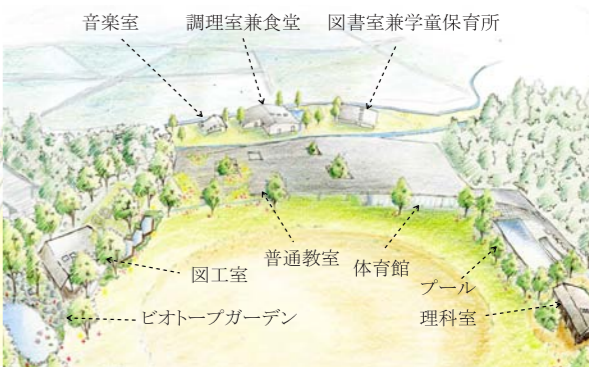
緑あふれる特別教室は、教育施設兼公共施設とし、地域に開けた場所となっている。

①教室内観 1



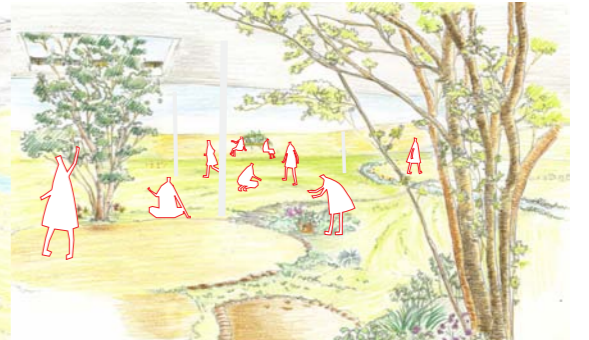
発見の道、順路はない。自分たちで創造していける教室。

鳥瞰パース(北側)



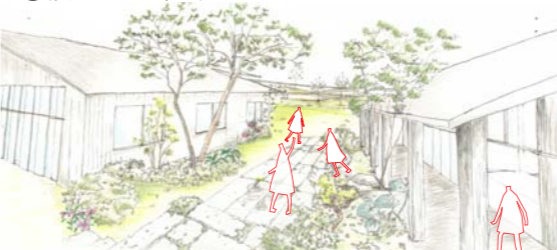
高さ10mある体育館は、北から見るとほとんど顔を見せず、南に広がる田畑や周辺の樹木に馴染んで見える。

②教室内観 2



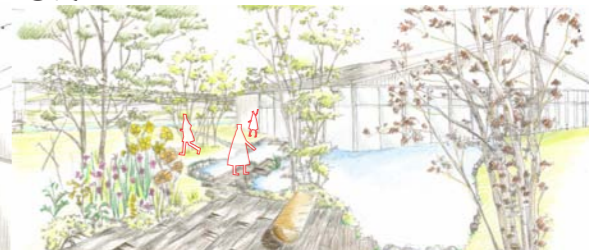
植物、虫、小鳥、子どもたちの共存する庭のような教室は様々なことを教えてくれる。

③調理室+音楽室



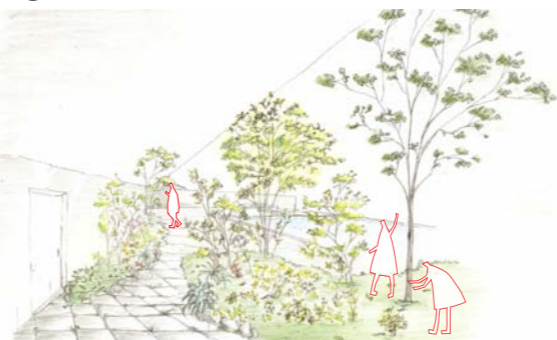
音楽室から流れてくる歌声やピアノの音が庭に流れ出し、植物はそれを聴きながら育っている。

④食堂



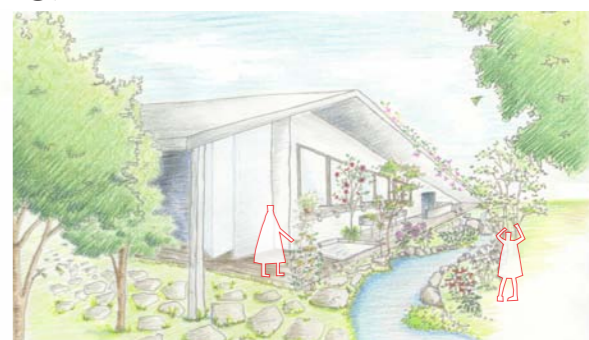
天気の良い日には風が運ぶバラやスイカズラの香りの中、太陽の光を浴びながら読書や食事を楽しむ。

⑤プール



体育館もプールも特別な場所とせず、『庭』として扱う。そうすることで、季節関係なく日常的に利用される。

⑥図工室



ドアを開け放ち、庭から運ばれてくる風やほのかな花の匂いを感じながら作業する。